中臣祓松風鈔

特別
イ4
3163
135

亜細亜
仁
3163
135

中臣祓松風鈔

中臣祓の名なり。祓の三災七難天変地妖悪鬼
まで祓ひ除災招福。神術なり。神徳なり。
天神七代か為て伊弉諾伊弉冉の二神
ひろく黄泉へも降りて祓禊給ふ
小戸橘の檍原にみそぎ給ひて濁穢を祓ひ
大神日神月神。素盞嗚尊を生給ふ
神の出生あり。三種の神寶と云。十種の神寶と云。

高岡の在事も是桜の神徳なり。桜の間清浄
外清浄の人洗眼の雲もわり。洗掃逸
の二動の言葉の愛動ども。同列なり。廣畧にて千始不
延喜式の二十始不桜として最上と
もろこし春日大明神より初てなり此神
あくまで盛唱等の為行甚悪により。天照大神天岩
戸かくれの合のうち常闇となり万物み。
依神逢羅と表盛唱等代科て千座の置之の桜とし

始不見神出給ふ桜の神徳なり。其後
高岡平天下も四時正しく五穀繁茂をも是桜の
徳なり。今の春日大明神乃神徳天雅の命解
天照大屋根命十九世常設大連ふりて此神術精
級天羅岡羅と事也と四事紀もかんぐり。其後
始のため大和四宇多郡より来代の
始不時今の春日大明神乃神徳天雅の命解
天照大屋根命十九世常設大連ふりて此神術精
級天羅岡羅と事也と四事紀もかんぐり。其後
なる名か中始の氏まで被下下部中始被承三姓一姓

ひ榜のまゐり給ふ天地と縁も人〻を把と清もろも人〻
ふつくしき愛おも迚ども都て国常立等の分身なもべひ
榜と祓をもろ〳〵滝てかうなること信心の霊蔭かうつくく
感應のあめにたべ神験なること不絶順徳流の禁
秘ものも禁中に於てもまいにち毎日〳〵榜ありこと拝たう奉幷
の榜のまゐり給ふ千二百三十餘座そのほか大小の神祇
おゐて神祭ハ皆是榜が根本なりべくも隨分の榜へ
ふつくしき愛の神術なりべくも浄

と云ふ者と清浄とくく滝と滝と清く
濁ごとくなりかたきゆゑ自然の榜も是風神九
て是榜の徳化なり。統べ春日大明神。正
統的くし一ぶ直授の榜を祈禱う者ゆゑ。先答願
長上神傳の相承せでして祈仕事ハいうでく
なり神乃お傳ことも榜が出うり。伴樂奇文傳姫
命と始もう。代くの春文も家において祈清和傳と

いまこと叛とおもひてのがれ去らう。聖徳太子満ぞ
仏教弘法慈悲覚悟行者安部仲麿其外の人民いた
不及　上天子と称なり。神道沙汰の筆に委しこの系
揃て仮名にて。今異国之　叛と　最悪
の沙時おもひ叛と　用人社稷事なり。近代神職乃
神職ども根本叛とおもひ女ども。其外神事おしへ
ども侍ずして置ハ歟うれしてなり
無良いつまでも堂上にいもの叛

と相侍ぜぬ人ども弟なり。これ
共孫男女ども浪。信心なり
今かくの北神ゆへ神道の下也。古来ども
なり。神国ゆへ神ゆへ神
な意ありてなり。神道
本心とゆへ国の人叛とおもふ
ものぶんにてなり
中居の中の神ゆへ心なり

則心なり。その外の境界は皆心の妄想なり。
隨分の稽古をもとゝ心得一心の如来に隨逢して神人不
二の境界を本位なるべし。天地神
等も靈徳金く行ふ。おゐ安國と云りのもとゝ
中臣祓にも天の益人の罪と民の犯せる罪
長なりとのべ。民ハ元と富める民ハ元と貧
民の心と藏法如くなりの如くなり。民ハ元
ゐる事を安國となり。事の稽古

と未篇よ書く和字にて
致候一致の口傳也。
稲穂と云く雲霧と掃
穂峯にて立て毎年
祢ぎの如くなるべし。
こゝを祓ふ。
信じて用ふなり

祓なり。天地人合徳の意文も此祓ふ終り。
祓ふ漏ふてこれなし。祓のな
ひふ神降今日向津る千
小笹ふて祓の字など未にて
用ひまゐまなれど。

諸神勧請段

高天乃原仁神留座須

る天系と云神明乃恩徳に
一気経動し初言なり。言波
の源をとし極元も空くの深
玄あり。ゆゑんへ事かい天
三ケ乃大事ゆゑく神通長と面接ひ決の切紙ホ
神代より乃家業一代不
紐乃神徳なり。諸祭の祝

紐乃建古多くいる天系と
伊弉諾尊乃神三七建立乃
天乃系とあるか祝紐と読
於ゝ其とゆくをもらう
衰ろ乃事乃。信仰乃深
つも乃ゝ神と満ろ乃神
十七ゐう神治の中にも
座須とハいる天系乃神

神留座須
是迄

生親神満波神満

養の
とへる地神二代瓊々
まゐで瓊々杵尊
と二人なむまします
めとの此神を皇親と
父母兄弟六親の
なり。神婦收。高皇産霊尊
の事なり。紀日本紀
大日霊貴二神をとてあり。高皇産霊

所遣の傅ふ。天鈿女
神稍細ふ細ふ所統天孫
霊ふ事ふ下方氏
とふ勅命ふ
賜比
とふ。私ふ神ふ
神議議賜
神ふ事ふ
ふ也ふ
とふ

高皇産霊尊の御孫なる神漏岐
葦原の下つ国の保ぞ。御孫
豊葦原の日の光り日中の方物を照をぐごとくおまう
ことの猶豊葦原の字を付ることの深き心をおもひみてよ
葦原を日本と書き換へて
荒振神達のあまたをばおのもおのも
所ぐ葦牟の柔して仕ることの
あるべきの住所を何ぞも葦原ぞう。

豊葦原の水穂の国

五穀万物をぞ生出ます国ぞう。此五穀
門ぬを稲とのみぐ最とおもひ
神皇。稲と云い命乃根
苗根とのみことなるぞ。ここを以
也尺水穂のぬとのみおもひ
水田陸田ぬ細あり。新
船後。其外式内式外の
事なるぞ。此国ぉ住人荒振神ぬ障なれ

つゝて獲ゑ拝奉り治めさせ給ふ
御事を所知食す
事依さし奉れ
と詔事の勅旨の
まゝにて此國を皇孫の御所
とよさしまつりたまふ
よしの神勅なり

第二段 神孫降臨段 又降誕より平産新宅
徒物等の祈狭き讀

國中に荒振神達
國中
と云ふ葦原の
獲ゑ拝奉り
而
亦
平
定
之
時
に
天
神
と
は
天
照
大
御
神
の
命
に
此
國
を
治
め
給
ふ
時
の
事
也

諸問之磐根樹乃立草乃葅葉も詞止天之

かゝれば葦原の二神は大己貴命をはじめ御國
攘ひろげ給ふ時の廣矛とい

神寶と神波一なされ振神運と悪活のよ
うな稜なり。般の根も地をの
ひまを吹うこの事一人情ありとやいへだ下
のみもつまる事なの道架とへ今も残を濁つゝ
かゝき架なり。汗架と書も實なりざる事なんの

天乃磐座放手

とい天孫天よれ申産をこまてよ
ん降臨のこのとも日向國を千穂の文小座まして
神武天皇まで汲と知食て今其憂を拝尊乃

陵ハ日向かのり。天神七代地神三代といふ格の
教かうをてやれ人間を十ケ月かせるゆゝよ
此神まの人事ハ徳あり一ゝり九と
も教なかつゞ有なるとかいへ
次也つハ水也なかまり用船のまある面ふ亭生の
祈給ひ岸波と祝詞の波と此波とを讀で感意
あるなり。

天乃八重雲幸

天の八重雲とゝ雲路とゝ降臨のあり

國家經營段

天降利候之

奉兒如此依之奉之と
中津哥一降臨の神勅と打つゞき念法り
言ふ事なり。三七紀かゝるといふ祝詞九事ぞく
かゝるなる事なり

豐葦原の

四方乃國中仁大倭

四方乃國中と八方國の中ゝく
和國の事ぞ方ゝ天の
大倭
も見ゆ。奈良盆地ともいふ。
又山の止ゝ又音聲ゝやまと。山跡又山戸。
日高見乃國
と八此國の名なる風土記日本紀
おゝ東國ゝ有とふ。此國ハ日神の神

速と万國を定め給ふ數しれぬ多の日の本の國といへまなき世々の君たち

安國登定奉天

と、安く平なる世と定めのまとつまなき君民ともに樂て言こと

なれい安國也

下津磐根宮柱太敷立

とも

慶ぐ幷尊此國の降臨ありや宮殿をも

下津磐根といふ天孫よりの

云傳磐根限り堅固なる宮柱太敷立と御舍

とも作り給ふ御柱のごとく太き柱を太柱と申す事也此御柱

の事をあり此御柱

の奇しき樂立柱着此

天心不動ふの妙并皮宮を御柱神祝詞ある

も文なり此立とつまる

人そも心御柱不立と

神柱事也秘説あり

とい天上までつゞく柱小此千木とまつゞく事

高天原仁千木高知天

なり。千木を日を加ふる事なり。又拝遠きる。木瓦ちぎつの木ともつゝ従あり。内外宮ハ削掛あり。多角家居ハ天をかゞりて他也。ニ光のめぐりて又日神の御円光也。愛ゝ拝尊の下御般根ハ御合して社まして心添雄来ハ下となる千木勝男木をして。のゝ細ハきハ和せて彩色ハきを事ハ赤ゝ。ゝ色赤を宮なり社也

吾皇御孫

尊ゝ義頭ゝ御舎仕奉玉

吾皇御孫尊とい神漏岐神漏美の二神ハ御孫なり。義頭の御舎とい清浄清明ハ御殿といふ事なり。義頭ハ御舎といふ御末ゝ火災ハ祝詞もあり。御舎といふ御末麗香ハ玉をもちゝ。仕奉といふ君臣合体二心なきを仕ハれるの事。君ゝ民ハ心をゝ没をゝ。浮民ハ不忠なれゝ天上ゝ神勅ハ久ゝ忘也

ゆでうまなることを諸神みをおう。

天御蔭日御蔭

天の御蔭と云天御中主尊を祭りてう。日御蔭と云日神也御事の日神をいへで君うる所の諸神不殘天御中主尊をいへで皆下なる事。

隱座天

とは其神徳を蔭ふまゆすなり。

安國止

安國止いつまでも〳〵御乱なく百姓命成就を安全とう。

平久所

知食年

とうといつまでも〳〵御乱なく邪神邪霊邪氣盜賊なきやうに征伐しうまつらさう所知食とうものなり

第三

群生犯罪段

國中に咸出年天益人等加。善事を用ひ給ふ

[天の益人]

[illegible]ことごとくなり　[illegible]
[illegible]咎ありの事なおおぞての支なり　ことを
伊弊册尊の千人を絞殺んとのこと。陰神よりの情。陽神の
千人を産んとのこと。伊弊册尊の千人を絞殺んとのこと。伊弊諾尊
お情の名別なり。月なお陽神をおとるを
なもじ。人種次第に繁昌をもとめ。
そもの益人とつ。天乃とつぶやくを天地の気
更ならざるのなれば。天の益人とのなり

過於犯戒章　雑諸事業各宗利　過不我知

お理よ過ひさる事なれをつぶやくを犯とおやまりと
知れ。過ともとをつぶやおまりびと濁りてんもだ知
安き言葉なり。罪とは狂過をやぶる心中に
邪念邪悪を積ることをいう。支は事
なり。咎はとがめなり。祟とはなりて神罰
お告のごうをまもるとつぶやくを言葉とあるで。雑ざつく
数ぞくのまなこと。草

天上罷段

天災五穀不熟なるの
天津罪止波畔と申放ち 天津罪 とは天上
にて畜る 目神 此 放ち
畔 天岩戸かもて塞ら
せるふるの 天津罪 となり。

畔と申放ち とは右申目神 此 畔
事。 溝と申埋 とは田と畦 所の水溝を埋め。
樋を放ち とへるの樋
とは人の種を蒔るよく又種とまれそるよ。
串刺 とへ田れのこと。又堰め溝の修れまざ
らはーるを抜至 剥 ともぐ 逆剥 とは剥と
逆さだとへるよ。皆も天 素盞嗚尊

きうく変雑書の多
おこごくとして多くまた
の罪と天津罪とハ
分らくへにしのよび
第五
國津罪段
國津罪止波生乃膚断
人民の犯所の罪なり。
許久多久
法別天罪
国津罪
人災并時又ハ病難呪咀
傷害する等ハ皆
とハ國土に
天津罪七種此ま津罪

十四種あり。
生乃膚断死乃膚断
断とハ
殺をとり
めるいひあるとハ
毒流
白人
とハ
調久美
とハ

るもおこさるゝ又白人
稚まゝ。白癩と書くもあり
讀せざる古書あり。此
乃ち死ぬもの此
心ゝれ尤も感應
世留罪已かゝる事
又道なりざる男女
已かゝる事 [已]

[已]母登子登 [已]母登子登 [已]母登 [已]世留罪 [已]世留罪 [已]
そ人傷めなれど不善不慈吏舍ホのて
の男女いこりる事
囲みをきまり。
をと云ふ [已]世留罪 [已]畜と [已]
いづも高きまゝ
なり。燒漢ぬもの

とうそうるりのをみ
邪霊の人に通ふと云ふ
神府をはらふ。
なり。
後〃う。度〃祓つて
だび。
鳥乃災
高津神乃災
とへ。雷神おれ事。
とへ。天狗野狐
とへ。牛馬木石
高津
祓て
高仆死
人の助けとうる高

邪気おこる時は死をする外
此祓なくて大已貴命
なり。
蠱物
呪詛毒物
許〻多の久乃羅
羅
出天皐
羅と云ふ
とへ。教くれ
の羅。
十四種の羅の人界より
天災地妖多し。それ
いろ〳〵
安国と平げ
十四種の羅と云事也。
皇親とうが

一切の人民となれる
せさせるの神道
くして高天原
て生ろうめす高
なり

第六

秘鳥跋明祭神法

神と事と実と
悪くして備
信實が神一の秘奥なり

如此出天波

とは上の諸の
なり

天津宮事

とは天上の日月宮をいう。
ふ事は神語ともいひ又天上の作法ともいふ日神
月神の天の事を知
天津金木を本打切
末打断天

とは秘奥の幣
帛と祖ふるさま。金木
幣帛弁ぬ小木ともいふ。
和幣は魂魄と表し
地のくの東西ろう。天はそれは日月かるゆく。
東は木西は金中は幣

を一心に御祖此幣帛を奉りて神と参会れい
感応なさてあるさまを。素盞嗚尊の名を
の為に祓のさま唾涜ていく。青和幣白和幣
と志めし。是遷曜なり。岩戸前の榊みて
鏡と玉とかけ。青和幣白和幣をそうし志
でことあり。祓具に幣帛。解繩人形かけ事も
あり。千座置八座置。其外伝物おさ祓く
法式のごく。延喜式のごとあり。

幣と。金木と本末打切とのふさる事一揃さ理
揃との寓意あり。千座の置座仁置足波之天
とへ。是も古法式の祓奥不ら時も此通ひ信
貫ふためど。神龍大明神の御徳
天津菅曽平本前断未苅切天八針仁取辟豆
苔曽とへ。茅草といふ。茅草ハ異名り
野菅ともいふ也バさもそべ。昌ふを茅草ハ
徳とかありてあり。ふ菅と麻と用る社例もある

なり。抑此八針に取除てとハ八方の苦萬
のつゝしみの妄念邪念と按摩にさり
さまぐ〳〵人民の罪とをあるを
なしだ。ふかゆきりたる
を按摩にすぐ紙を
按口決なくていかで
第七
太諄辞段 此段の深秘の深秘にて神と祢との相嘗而
義直接の按 天子御一人の御相伝と
摩にさる事なり

天津祝詞乃太祝詞

天津祝詞の太祝詞の事一ト
とハ天照太神の宮ゝを
なり。此天津祝詞の太祝詞
天兒屋命太玉命ホの
生し罪咎をも祝詞
なちも災と止るをり
もるりのハ天照太神
歌なりと猿女ハ

遺風とそこのよそもがへ
神國かまれるべ。異國の人なう。
とへ此祝詞とのふるこうそ
び祓へと万葉集に奇しくも
とへ天照太神及天兒屋命太玉命とも降臨
もまもとうおへ一切の災ひも物憂くして幸福と
なる神術なり。深秘の大事は長と一人
の御家業にて神代より一代不傳の秘

三國志に家職長とする事ふと
家に風吹つるとそ神心
正しき

第八

天地神感應段

此祓を唱へ食て感應ある事
天津神 着天磐戸於押開兒
神といふ天上の諸神 天磐戸
と押開て祓と 天津神
とへ天上

雄風と兒屋根太玉の神
神徳をもて日神岩戸
人々の心中を常闇
國津神 地下の神なり。
禁とのゝ給ふ事理とは幾重
なり。重ね山なる
天地の神感應あ

高山 八山の頂 短山 八

閑食

ざりて不叶事なり。感應の
信ずるもの自己の神
まで祝事。言葉にて
知らぬ迄るいの事

第四

譬喩段 又軍敗治要段ともいふ

如此所聞食天波 稜の
罪と云 罪咎と云咎波不在と

人々の一言續

ゑうう法そうくて災難あり。祓ひ解除といふ事を安し。八百万の千の千万の荒振神と祭り給へ。此荒振神達の事ゝ祓へ給へと申すことを聞食して、祓戸の神達と申す。

祓戸乃風乃天乃八重雲を吹放つ事の如く

久朝乃御霧夕乃御霧朝風夕風乃吹掃ふ事乃如く

祓戸乃大神達諸尊の朝霧夕霧を吹掃ひ失ふ時の神なり。今其神風を以て天の八重雲を吹掃ふ。又朝の御霧夕霧を御霧とへ深き霧とのたまふ。御霧八深山とか深谷とかつゞく深き事なり。深き朝夕共も祓戸の風の吹掃事のごとく祓ひ清め罪咎の雲霧晴て晴天白日の胸中と成ことをいふ。祓戸の風神の名。風神を深くの神祝ふ

ん暑を
大津乃邑仁居留大船乃舳綱解放
艫綱解放之大海原仁押放津
屋繁木加本宇燧鎌乃敏鎌於以
如久大津乃大海し邑と舟のごとくあへる
けるおきたる舟し自由をうざくを舳艫の綱と
して自由に大海と海とを小舟し連開どたく
さまのなり。彼方屋と遠さといふぎ近さ
なりてをり。繁木とも。草木とけて雑
木乃敏鎌於以
如久

第十 徳化利生段

遺れる留瀬波不在止。若し掃ひ般遷さば、必ず有り如く雲霧と共に
網曳き立てて大海と
おく障碍もなく。遺れる留瀬波不在止 授賜比
清賜事を
とへ。何ぞも神にまつせ
授清めの
高山の末より利佐久良
若に落瀧津速川の瀬に坐須瀬織津比咩
玖神 高山のもとひろひそ
水に幣捧ぐ
比咩という神を此瀬織津比咩と伊弊諾尊
トゴれ後の時化せの弁ら川より水神
の織る災難を祓て大海へ祓遣るを弁也。
佐久良若とは

太理ともつ。此佐久良若八元孫幸中みま
須々ノ時中津濱のあり。濱綿津姫のみ社もわつ。辺の遍ふ佐久良若くい訴
聞ともよ佐久良若くとも訴のつて帝に奏る
ふなれで。皇孫よ佐久良若くとも云とれかみまるど
か為ふ佐久那太理とひ書へふれい
ずへど。大海系た持出奈年如此持出奈波水
神ふう海神み津ふ為ふ。

あうさま海ふの狩ふ連くハふも勝つふ
とみやうなるものふう。
塩道の塩の濃八百会ふ八百道の八
なる体と云。速開津比咩登云神
又ふふ神ともと在ます。秋津彦秋津姫
と三女紀の内よ二神の名出ふ事もあふ
太神宮めく激祭社ふ一切の悪ふ
消滅ふう神ふう。

神代

呑天波 神語のまに〳〵解雖ども祓ひて清淨とうけ
とまり玉ふ事喚呑とも一訣あり。唯祓の心と
なるべきものぞ。師説と更に異ならず。
戸仁坐須氣吹戸主云神氣吹放玉幷氣
吹戸と云。日向のおど戸より下津潮といふ氣吹戸主と
八風神なり。太神宮御鎮座の時比女大海の
比女神より大海の祓のけがれを速秋津

比女神より清祓して祓をそなへて吹戸の神を
て吹掃のまに〳〵清淨とをうけ玉ふ事
掃氣不淨とをうけ玉ふ事ハ氣吹戸主の
云ふ所の玉ハゝ氣吹戸主の掃のまに〳〵悪心
ともしたのもの神人ともに悪心ハ氣
吹戸主の神徳にて清淨のまに〳〵祓ひ給ふなり

第十
鎮悪神段 此祓退散をする悪神と悪く

如此氣吹放ㇾ之波ㇾ登伊風神。惡事ㇾ吹掃ㇾ登ㇾ之。
根國底乃國仁坐須
根國ㇾ
之ㇾ
底ㇾ
乃ㇾ
國ㇾ
仁ㇾ
坐ㇾ
須ㇾ
根國

なり。諸の邪神一達も其通。見安り
たこのとの鳴雷も祭る社種蘭又今文出雲ふも赤
この玉ふて八石動其ふみ
荒魂とうく結め祭るぐ人く
ふ稜ん肝要ぞう。可ふ
八百万神納受段 腦臆
ふの神納受ふ上八百の祈乳ぬ能ぞるなう
如此失ふ波。

まで ふ稜結めありせて
ふ磐波不在物於止稜賜
高天原ん法神と勸清
唱へ稜賜ひ清めと請神
力合体して。
申壽 廉ハ天獸ふてさ
肩骨と用ゆる事のり。
と諸神も聞食て天清

女の同不浄一天安全日の護と諸神小神約束定て扱をもひ
なり。た男麻のた男とつゝしみ恵ぐなるりのを
さわとう。日本紀か御大麻ぬうなるゝ。麻八霊獣なり
旧事紀顕宗天皇巻こよ室壽傍山よ牡麻
の角舉而とそ。赤績日本紀狭牡麻乃勝
折反とる赤万葉に牡麻。次狭男麻次た牡

鹿廻喜式にい大麻小麻と麻の影粉くわり。
麻八麻湯大明神。春日大明神よ使者なり利。
霊獣なり八乃耳とい耳パつゐた雑ぞ。贅狭
八筒耳聖徳太子も八筒耳望みともまる。
麻八能聴とい耳外振ぐ御耳よ
門の字加つく讀八習ふ事との卿説三極
通達の耳ともいなる。贅耳尾命之申

神もそを尊き者所以於賢人の
智義あり。帝皇不勤ふ常産神龜靈龜
なれども猶ほ命ふとひ壽とひ耳ハ水水と
云ふもの八心あり加天地人ふ三才て
為ハ又一と十との始まを降てニすつ九まぐる
八つと貴ふも無窮の教也教ハ月ふう出ふ川
星ふ次ふ歳月日時時ハ星の精也。
月ふとふ云ハ教の下略八百万ふよろづとかう次ふ

乙ふつふ云ふ葉ふう申ハ壽といふものそと云ふ申ふ
甲ふといふ壽の字にも心ふ付ふて可見事なり。

唯一神道傳授 略記

天神太祖、天照太神、天兒屋根命。
天種子命。常磐大連。大纛冠、伊日九。
日良九。兵庫。兵庫。兵庫。
兵庫敬、兵庫章、兵庫雄

青木主計頭
藤原永弘

史被者次前の解釈の通修撰諸尊中清
瀧の解除とを為本。此神おくに。素盞嗚尊
の千座置戸を科被人皇ひくに神武天皇
より御時。天神地祇を祭りるため。大和國
宇多郡。於榛原而。天種子命に祭ひく
太廣縁清浄。覚祈禱ひる事感應給
ひるため。納受給ひて悪逆治ぬ。兵庫而被の
徳用い三災、兵災火災、七難、兵災火災

又五穀繁殖天下國家の政務人民胸中に
御ものゝ忌をつゝしみ清浄をこゝろ
改悪をかゞみ行ひ桜の感化なり。道徳
ましまするまで影響譬諭
なり。塵を掃ふともろ〳〵の邪気毒薬
祓ひ清浄ともろ〳〵の垢衣悪物等を洗
とのゝ。猶數悪出ともろ〳〵の禍災
くろ〳〵ふ葦原と安国となすことも

此祓ひ用ひ次第
書中の神之代優々幹等日向妻子
穂峯に降臨の時紙
に御穂と榊を神酒の障
晴天白日となりて
此故神事神幸
比時の法創也
年〳〵水なき新

別種ありて毎秋蚕化てせどろの陽穂なれ
陽穂國ぐるり人今猶体なり。ひもで未だ字の
夜霊陽をそく。猶でさんぐること神龍大明神
亦桃花老人の所説もおなじ。日本紀
天武天皇十一年丙午命二境部連石積等一更
肇俾造新字一部四十四巻といふ傳来なり
漢土にも鳥の跡とはじまりて
記百体乃文字ハ皆ここに
の字形見ゆ。
一万又千三百八十余字
忌部正通の説かの象形
の時日本紀乃奥書ハ
くに傍よ。漢字ハ附けら
像中天竺乞巧秋分初之於諸國置國史記
言事一達四方志とぃふ芸娘神字乃傍に

梵漢の字共にをさく事理通達をるゟ
我も梵漢共よふ〻実意くれぞも徳化周ひ
行ひ廻て有事ハ分明なゟ今実にあゝなゝ
ゟ及神國にをるゟ狂の人共本汝忘也
ゟく。高天原天津祝詞乃太祝詞。持可可年
呑天年。我賜比清賜と云〻神語を目くに
唱ゟる事ぞと云一六日朔日六日十一日十六日の目なりそも
ゟる時ハ勾〻文〻神明〻神体とをぬ体と

ひ神壇と云そ神座を二心なく神慮を
こゝろまもるべし。其よふをく三女共安和事をゟ
の人なり。家も絶も更ゟる事ゟ
正道の神明を心ゟく。其ゟと受継人を
神人ゟく外に来ゟ事をゟ
に及ゟる神業なり神儒仏
に心得ゟる事ゟ

同

高天原

天御中主尊

高中長三訓一致之支

上下 中央 極 横 東 西

虚空 口傳

に分けても開くの思ひ給をうくひ給
の位と人〻く高き事ぐ分一也本朝本朝
此人ゆく異経區〻に用ひて士農工商
職分ハ一也。神國本吾の神質ハ一
自然と稜の徳化よ叶ふ人の撰にかゝ求て問よ
求る事なふ如要奇〇雲晴〻く後のむろ
ふよ本ふと空ふる雨の月の荒石ふくぶけてよ
る月新此一ふりなりて帰ふ南波

參詣器次第

先前祓　早旦行水　次著清浄衣

次出門之支度　拂の事口傳　次鳥居之大支度　拂の事口傳

次進神前　次一揖

次二拜　天御柱國御柱之事口傳

次座揖　斤むざいきて拜をうす

次拍手二　小大とおうう又打ざに拜をして後祝詞の折念をもう次第もあり　祝詞奏未心よまうせて後へ拍手二大小とおうて又一礼拜し一度を当て勝を揖て行のざまなりて礼拜をうし　此外未詳し次第次第の切なりて勤りざ也

參詣器次第

進神前

次座して二拜　是又未詳　十寶の十種神寶も用ゐ

拍手　小大二

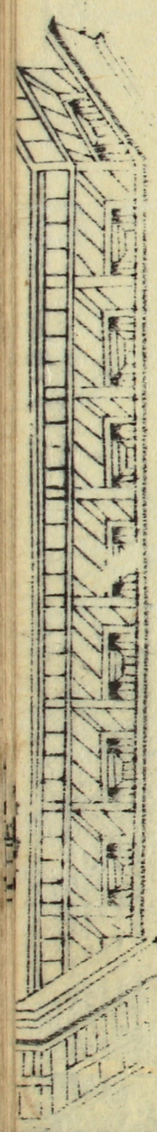
祓祝詞折念祈禱ども

拍手　大小二

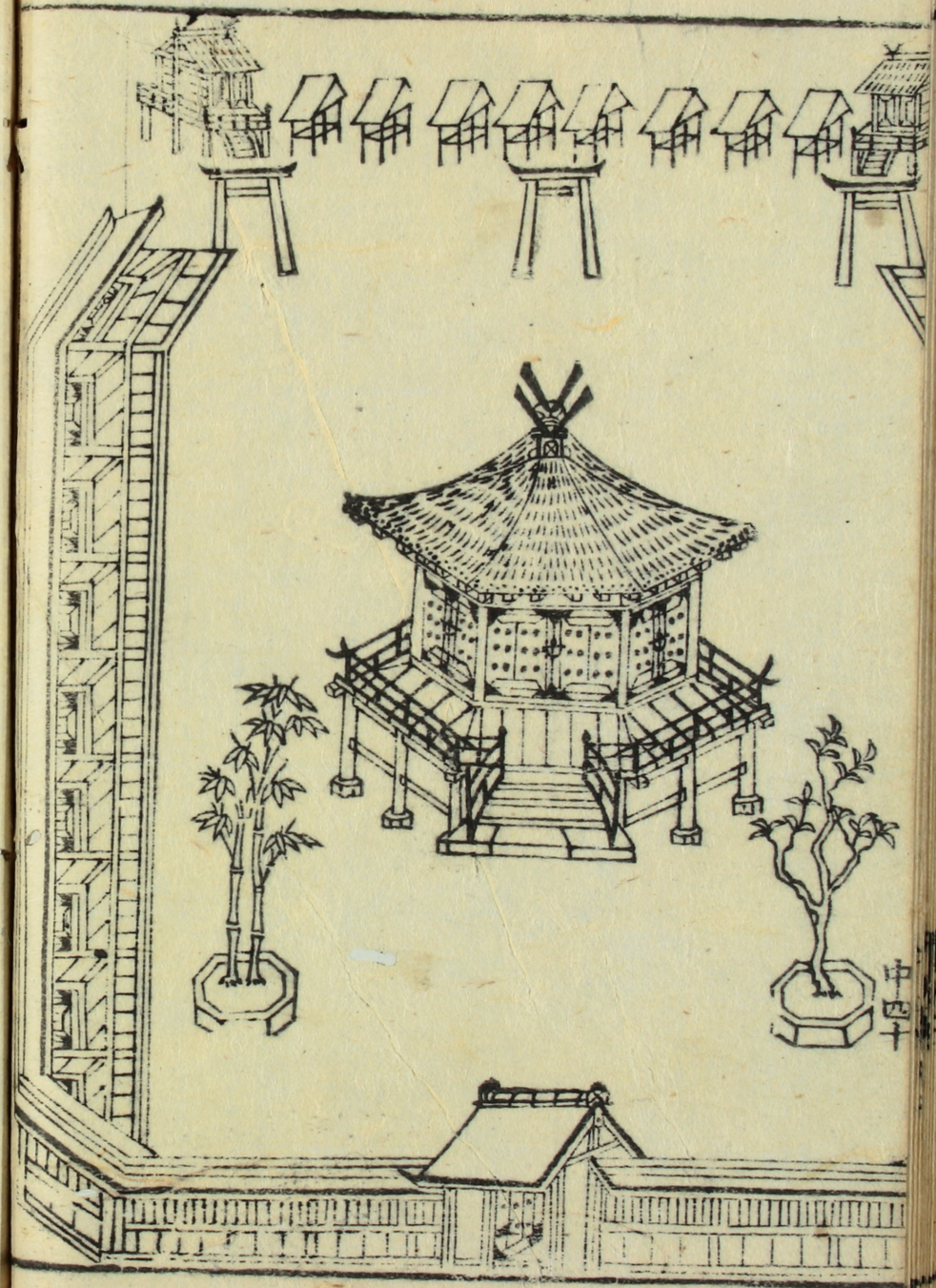
次二拜

次退下

人皇首一神武の御時大和國多の郡に於て
原前天神地祇を崇め
太孝 祈給ふの時の祝詞に
生駒嶽よりも高日宮より瀬の淺瀬を
神乃風吹
の御霊等。日本三十二百州悉度の神体
も此日高日宮より
く神孫今皆神祖長との御詞。



の神壇霊場雖有之者神明降化之濫觴
嵯峨天皇 聖記
日本最上神祇齋場者神明降化之濫觴
下界勧請之根元神武之草創我國之崔
躅也然則奉安神代之霊寶受天照太神
之詔命修天兒屋根尊之大業誠是神國
第一之霊場本朝無雙之齋庭乎愼而勿
怠矣



蒲生乃社日宮浴ひ波此北東向同中島板
潴ありとりるに関東のい小亜と今もつゞきと
いふそも文選にも笙に鐘と撞と撞とい事
なるにト歌家の説い相違せりと按るに或人
同りいで見てのふるゆゑにいまとやるゞきと
いふるゆゑにいまとやるゞきと同
いつて若生東奥迄も中古の比りいふ
みんなうつはまでとい至とい大意

といひ、毛見神の神名なりとみえたり。
事八云とのふ云集ひ給ふく神祝祝うといへり。
名ヲノの前ゆくれ事なりぶ木とかるのざと
いへるまも名ヲのまに和幣とうまてさげのふ日本紀伸哀紀
にも両手をふ拍手する事あり。
古例のふく梅探ひ鏡をふ拝する事あり。
とをくくをふ敬ひうる為とふるいはを

小木なり。紙も榊ぶ神事に用る
事の根本なり。それを幣帛
といひ為慣ふ紙とふ
書ふといふ事にくさ
生てくハ魂魄東西八金木なり。人ふくハ脳肝
まに和幣白和幣をふ東西にふれど金木なり。
書ふかざ別のふ細なれ事に深りといふ
人ふ事相の他ふ

又向ト新羅護global神社ト云根国ト宇ト磯駄盧島
トイフ事ナリ。此ハ言家ヨリ他ヘ別ルル
トイフ心アリトイフ。若此ノ宇根ノ命ヲ以テ
ヨリ変ジテ釈迦牟尼ノ如来ノ法ヲ天地ニ
流伝シ給ヒシ事ノ如ク今我ガ国ノ宇根ノ命
自然ノ宇相ヲ以テ女人ノ胎中ヨリ
生レ出ル時ノ楽ニテ合掌シ礼拝シ
胎生ノ初開服ノ法ヲ伝ヘ給ヒシ事ヲ
いひ乳トいひ飲トいひ服トいひ形ノ始ノ
ヲ以テ今日ニ至ルマデ心ヲ神ノ躰ニ
往来礼拝ノ根元神語ヲモ人者守深泥犂
ノ罪怪ノ如ク極ナリ。也ノ母ナリ。実賢ヲ異
トシテ我モアリ而ヲ
カノ形ヲ可観。彼ノ宇根ヲ神代ノ
儀ヲ象徴シ給ヒシ事ニモ天御
柱トいひ国乃御柱トいひ伊弉諾ト云伊弉冊ト云
父トいひ母トいひ三年ノ胎乃根元トいひ事ノ

のこと附説

一次ぐ所ある人間事あり。神道り史伝記と
いふ一朝の法令ことごとく區々にて不用者
多し。神皇に備尼重裡服を忌とのみ
とゝの忌わさに死骨の中にも寺社等にまで
塵神民神まで来世
まの人をまもる事を
朝庭の法令をも破り。人々そも〳〵なるもの

皆神歟知歟のおなじ
永岡聖徳太子も日の本の
國漢土も星のめぐりの
併ハ天皇の神。尊き
三國の最上たるもの
天照太神。八幡宮
磐日本は出家未だ。天照太神八幡宮のごとに
おさまる札守ぶれも用ゐ若あり関ゐ若あり

なるもの也。和漢共に其例多し。
事にふれて神の感応ある事
なるもの也。和漢共に其例多し。
なるもの也。和漢共に其例多し。
と云ふ事なし。然とも天照太神八幡宮
とに当りの勇て参らざれば
此ゆえに独り慎むべき事也。
今世の人心汚れ
神国にまるべからざる

人のつとめとくの段よ
之り。天竺漢土よりも
らむ。当所より可被
たる道也。天竺の人
ける人は二本の乱流
流物を用ひ死
もろの祓ひ神数な

寛保元年庚酉秋月十七日

藤原惟孔弘

肥前州長岑

石牟禮嚴